

担い手のライフサイクルに応じた支援

タイトル 持続可能な経営改善計画の策定

J A 名 秋田やまもと（秋田県）

1 動機 (経緯)	正常先である稲作+畜産農家が機械の更新等により、今後の返済及び営農計画に支障をきたす可能性があるため、早めの経営改善計画の策定を行いました。経営再建計画が必要となる前に、その兆候が見られた時点で J A と組合員が一体となり対応することにより、より前向きな営農計画が可能であると判断し行動しました。
2 概要	経営改善資金計画を立てるにあたり、米価の低下、資材価格の上昇という点を考慮しながら、持続可能な営農計画を策定しました。また家計費の見直し、農業経費の見直し、問題点について話し合いをもちました。そして地域の同じような規模、営農形態を持つ農業者からのアドバイスをいただき計画に反映しました。 対応する資金について、必要に応じた、資金細則の改定を行い、より柔軟な対応ができるようにしました。
3 成果 (効果)	規模拡大による、資金ショートのリスクに対し、アグリスーパー資金をセットし、組合員の心理的負担を大幅に減らすことが出来た。生活資金の利用が無いように、J A では担当による、チェック体制を維持し、使いすぎによる新たな負担とならないようにしている。また資金計画を見直したことで、生活費の増加には目途が付いたことなどから、家畜数の増加等前向き資金について検討が可能となりました。稲作については営農指導員との連絡を密とし、育苗等の指導を行い順調に推移している
4 今後の 予定 (課題)	今後数年間は経営状況について見守らなければならない。共に連携し、経営を軌道に乗せていかななければならない。また米価が下落基調にあるので、米以外の収益作物について模索しなければならない。 農作業が代表一人にかかる負担が大きい為、後継者の育成と家族労働時間の適正化を図らなければならない。 J A は担当者が代わっても継続してフォローしていく体制が求められる。